



世界に希望を生み出そう

HIGASHI OSAKA MIDORI R.C

CLUB WEEKLY

国際ロータリー第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ

創 立 1998年9月24日
会 長 木 戸 章 由
幹 事 井 上 善 博
会報委員長 山 村 忠 弘

2023-10-26 (第1058回)

今週のプログラム

《10月26日(木) 例会 KKR ホテル大阪 5F「瑞宝」》

◎ 卓 話 「風水・開運」

風水の先生 七海脛刃様
(担当：政岡政広君)

♪本日の歌 「それでこそロータリー」

次回の予定

《11月02日(木) 例会 KKR ホテル大阪 5F「瑞宝」》

◎ 卓 話 「未 定」

村上靖平君

前回の出席率

《10月12日(木) 例会》

会員数17名 (内出席免除者数7名)
本日の出席者数9名 (内出席免除者数2名)
本日の出席率 66.7%

*9月21日(木)

会員数17名 (内出席免除者集7名)
例会出席者5名 (内出席免除者数1名)
メークアップ2名 例会修正出席率 63.6%

幹事報告

幹事 井上善博君

- ◎本日例会後、第1回指名委員会を行います。
- ◎次週(11/2)例会には、東大阪RCの方々からIMロータリーリーダーのPRに来られます。多数のご出席をお願い致します。
- ◎次週例会後、定例理事会を行います。

会長の時間 (10/12)

会長 木戸章由君

本日は、国際ロータリー第2660地区ガバナー補佐の横田孝久様が例会前にクラブ協議会に参加され、色々ご教示賜り誠に有難うございました。横田ガバナー補佐は、2026-27年度のガバナーになることが先日地区から通知がありました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

10月24日は世界ポリオデーです。ロータリー会員、公衆衛生分野のリーダー、ポリオのない世界を願うすべての人びとが力を合わせ、ポリオを永久に無くすために行動を起こす機会です。ポリオ根絶活動のおかげで、身体まひとならずにすんだ人の数は2,000万人、命を落とすことのなかった人の数は150万人に上ります。

ポリオが根絶されなければ、今後10年間に、毎年20万人の子どもが身体まひになる可能性があります。

ポリオの根絶は、すべての子どものためのより健康な世界をつくることです。

ポリオ根絶のサーベイランス(監視)や予防接種活動では、ビタミン欠乏やはしかといったほかの健康問題の検査も行われるため、いち早く対応できます。

例会場：KKRホテル大阪 Tel：06-6941-1122 例会日時：毎週木曜日 午後6時30分

事務所：〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘3-11-30

Tel：0742-55-4869 Fax：0742-51-1067 E-mail midorirc1126@gmail.com



世界的なポリオ根絶活動により、1988年以來、270億ドル以上の医療費が節約され、2050年までにさらに140億ドルを節約できるとされています。

ポリオが世界から根絶されれば、天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、歴史上最も偉大な公共保健での達成の一つとなります。

2660地区でも、地区内全ローターアクトクラブと地区ロータリー学友会が中心となり、「END POLIO NOW チャリティハロウィンパーティー」が行われます。

開催日は10月22日(日) 10:00~16:00となっております。

入退場自由です。会場は大阪市内にあります「YOLO BASE」(よろべす) 入場料は無料です。

東輪会合同例会 講話抄録

「三世代がつながる広場づくりと

東大阪の地域活性化」

講師 社団法人アトリエスタ・畿央大学

広陵こども園 西田 順治氏

皆さん、こんにちは。本日は「三世代がつながる広場づくりと東大阪の地域活性化」をテーマにお話をさせていただきます。まずはみて頂きたい資料がありますのでご覧ください。

我々は「遊びと学びは多分同じ」ということをテーマにやらせて頂いています。「子どもたちと地域をワートでつなぐ活動」をテーマにしていますが、なぜアートと子どもなのか。なぜ地域と関係するのか、色々課題を抽出しながらどういうことをやっているのか説明させていただきます。

現代の子どもの体力の相関図、文科省から引っ張ってきたデータになります。かけっこであったり鉄棒であったりバラつきがありますが、平均すると確実に落ちています。全身の筋肉については100年前に比べると約半減、この当時は松下幸之助さん、本田宗一郎さんが子供の頃です。専門家の話では毎分100~150の心拍数が必要だそうです。かけっこ、鉄棒、木登り、鬼ごっこ、これらを1~2時間ででき

ば、その当時の子どもたちと同じ体力に戻りますが、それが今はできていない状態です。身体機能は脳機能の発達に勿論リンクしてしまして、身体の神経系がフィードバックして脳の神経系をつくりまします。これからが今全て落ちている状態だということです。

一つにはスマホの弊害、依存している子と依存していない子の学習の偏差値に差が出てきています。中3の脳のデータ、脳が育っていないところが影になって黒く、脳が大きくなっていません。小6から中1に上った時にスマホを持った子と持っていない子、スマホに依存している子の3年間のデータ、MRIでずっと脳をスキャンし続けました。中学生で最も体が成長する時期に脳が成長していない。イメージ、認知機能、記憶、言語視野、スマホを持っているのでそれらを代弁するものが目の前にある以上、記憶する必要性がないと脳は判断し成長していない状況です。物を考えられない、集中できない、イメージできない、スマホ依存の特徴として表れています。

AIDMA、消費者行動心理というよりも人間の行動心理だと思って下さい。「Attention、Interest、Desire、Memory、Action」一関心があり、興味がわく、欲求、記憶、行動です。2000年にインターネット革命がありました。スマホが普及し、今の行動心理はAISASと言われています。

「Attention、Interest、Search、Action、Share」一関心があり、興味がわく、検索、行動、拡散です。関心があれば検索してすぐに行動する、最後は共有というより拡散です。何が変わったかという記憶する必要がなくなり、記憶と欲求はリンクしていますので、今の子どもたちは欲求がなくなってきました。これからもっと追いかけて出てくるデータだと思われます。

東大阪の人口比率をみると、全国平均とほぼ同じデータが出ています。東大阪の何が課題かというと、子育て世代の人口流出がはなはだしいことです。生駒山周辺は比較的人口が増えてはいますが、較差が発生しています。私は東大阪の石切在



住で、公園の写真を持って来ました。遊ぶ場所がなくなってきています。子どもが遊ぶとなると東石切公園、これ以上小さくなると子どもたちは遊べません。騒がない、ボールを持ち込まないなど、コンプライアンスが非常にうるさくなっています。



課題の抽出をまとめますと、地域を取り巻く課題から、東大阪は少子化の傾向にあります。人口流入より流出が上回っている、子育て世代が暮らしにくいというアンケートが出ています。共同体意識の低下、広場と世代間構想がなくなっています。世代間構想とは、この場合はコミュニティです。一言でいえば世間、世間という意識がなくなり、子どもたちの環境は家族と学校という二極化が発生し世間がなくなっている、なぜかという広場がないからです。世代間が集まるという意識も低下しています。

子どもを取り巻く環境で一番怖いなど思っているのは特にスマホ、塾などの習い事の増加も含まれます。外遊びの減少、子どもたちが一緒になって発見、発明する機会の減少と私は捉えています。松下幸之助さんや本田宗一郎さんの子ども時代、いつもナイフを持って遊んでいて、その場その場で発明や発見をしていた。玩具を作って、子どもたちで情報共有して、更に組織を作り、成果を出していく、子どもの時に何かしら人生が完成されていたと言われています。スマホとゲームがある以上、後に続くイノベーションが発生しないと思っています。遊び文化の継承が低下し、世代間交流がなくなって、そこには大人がいない、交流する場所がない。コロナ禍の3年の影響もあります。不登校児が増えてクラス

に2割はいると言われています。身体活動の低下、同時に記憶、思考の低下も懸念されています。

探究心、好奇心をどうやったら取り戻せることができるのか、私がやっているテーマでもありません。神社など伝統ある場所の活性化を目論み、新しい地域のお祭、三世代が交流する場所づくりというのを提供しています。地域のお祭の意味を考えました。枚岡神社と石切劔箭神社、我々の神社はまだまだ活気があります。生活文化の継承、それがお祭の意義の一つです。世間、コミュニティマ継続、これがな

ぜなくなっているのかというと、小さい神社がどんどんなくなっています。また、一つには地域の自治会に入る方々が少なくなっています。

緊急時の地域の機能性の維持、お祭の本当の意義はこれではないかという研究結果が出ています。災害が起こった場合、お祭が継続している場所は復興が早いです。若者は体力があるので体を貸してくれますし、おばちゃんとかご飯屋さんにご飯を提供してくれます。印刷屋さんとかはポスターを作ったり、余裕がある人はお金を出したり、そういうふうな形づくりがある以上、世間は継続して運営されていきます。何かあった時に非常に役立ちます。そこに子どもたちはどういう仕事があるのか、楽しんで遊んでいたら、次の世代に続く。いわゆる希望です。大人が子どもたちを遊ばせることによって、影響されます。時代が変容しているならば新しいお祭を地域に創出したらいいと思っています。

新しい共同体意識の構造化、やらせて頂いているのをみて頂こうと思います。東成区の八坂神社とか八王子神社でやらせて頂いています。石切劔箭神社でコロナ前の2019年まで3年間やらせて頂いた「参拝日和」というのをみて頂きたと思います。地域のお店やカフェに声を掛けて出店して頂きました。他にスポーツ、アート、音楽、大道芸、2歳ぐらいの子どもでも遊べるような場所づくりをしたいという形で木のワークショップをやらせて頂きました。大西将太郎さん、2007年W杯



の立役者が住んでおられて参加して頂きました。ワークショップでは、アーティストに参加して頂いて、何なのか一緒に考えて、そして教えてね、という形で工作をします。5分でできる子、1時間もかける子もいます。紙芝居をやったりアート神輿もやりました。

共同体験ができる場所、これはどういうテーマかという、「憧れる人、場所、チャンス、機会づくり」—メディアの中にしかヒーローがない、地域のお兄ちゃんやお姉ちゃん、格好良い存在をつくりたいということでプログラムを作っています。

第三の場、子ども食堂です。実際はセーフティネットです。帰れる場所、いられる場所という体験と安心を作りたいと思っています。学校と家族しかない、世間というものなくなってくると、辛い子がいられる場所が少なくなっていますので、そういう場所づくりも我々のテーマの一つとして捉えています。また、介護施設でアーティストと一緒にやってもらったり、小学校のいきいき放課後児童教室、町の放課後児童教室であったり、我々第三者がその地域に対して常にいるわけではないのですが、「たまに来るおっちゃん」みたいな存在として機能してくれたらという形でやらせてもらっています。

教育、知育への参画、子どもたちと一緒に作る場所を出前しています。メインテーマは子どもの目線で、子どもたちが考えていることを一緒にプログラムとして作っていく、それを現場に投下していくことをしています。私がプログラム参画して授業をさせて頂いている畿央大学広陵こども園の写真です。段ボールで大きな積み木を作ったり、絵具まみれになったり、葉っぱを教室に持ち込んで子どもたちは何ができるのか、「こういうことをしましょう」は一切なく、どういう成果が表れたかというお面、時計、おままごと、頭の中のメタバースを再現する子、大きな葉っぱで球体に作り上げていく子、私たちから見たらみんな正解だと思います。

次の世代につながる関係性づくり、地域のお祭、教育現場への参画、第三の場所をつくるセーフティネット、そこへ大人の参加、できたら高齢者と一緒にやるという形づくりをしたいと思っています。

私たちが影響を受けたレジジョ教育というのがあります。ローリス・マラグツィという方の言葉、「100人にアプローチ」—子どもは100あると言いますが、大人は100ないと言います。なぜかという正解は1つだからです。そうではなく私たちが子どもから学び、正解は100あると思おうではないか。広場作り、アトリエ、これはいわゆる町です。町というのは誰もが一緒になって遊び、考え、発明する場所です。アートには正解がない、なぜアートなのか、なぜ子どもなのかの答えであり、正解というより発明と発見です。子どもたちはAIDMAからAISASになっても関心は残っています。その関心のある活動の中で積極的に、認知的、身体的、社会的に参加します。アートはその探求を導いて、我々大人はその目線を共有して自らの体験をアップデートする。我々アトリエスタは地域に広場をデザインしていく、時には子どもを主役にする日が1日あってもいいと思います。子どもと一緒に遊ぶ大人をつくりたい、我々の中にも実際子どもはいます。成果というものを求めようと思ったらプロセスは絶対あって、そのプロセスを子どもたちと一緒にみることによって我々がイノベーションできるような日々が作れるのではないかと考えています。

子どもの目線で楽しい社会づくり、子どもと一緒に笑っていると目先の得よりも将来のイメージがわきやすく、だから子どもと一緒にやっているとあります。子どもは社会の存在と定義しています。ですからこれは社会事業なのかもしれません。但し、大人も一緒に今を生きる存在であり、今の時代、子どもは我々と一緒に今を生きている存在であり、だから同じ目線で「ここで暮らしていて良かった」と思える地域づくりに貢献していきたいと思っています。以上です。本日は有難うございました。

ニコニコ箱の報告

例会担当委員会

(10/12) 合計 35,000円 今年度累計 162,555円

奉仕を通じて増強に繋げよう

2023-24年度 東大阪みどりRCテーマ



世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう

2023-24年度 国際ロータリーテーマ